

令和4年3月17日

都道府県協会 審判長、理事長、事務局長 様
ブロック協会 審判長、理事長、事務局長 様
連盟 審判長、理事長、事務局長 様
JHA理事、監事、参事 様

(公財)日本ハンドボール協会競技・審判本部

競技本部長 高野 修

審判本部長 福島亮一

2022新競技規則変更の概要 (2022年7月1日 IHF 施行) について

(通知)

平素より大変お世話になっております。

国際ハンドボール連盟 (IHF) 競技規則審判委員会は、2022年3月1日に新競技規則を発表しました。IHFでは、この新競技規則を2022年7月1日より施行する方向です。大陸連盟 (AHF)、および国内大会においては主催者によりその運用を定めるとされております。

主な変更は以下の4つです。

- 1 ボールがゴールキーパーの頭部へ直撃した際の罰則の適用
- 2 ボールサイズ (外周) について、松やにの使用の有無で分類
- 3 スローオフエリア
- 4 パッシブプレーの予告合図後、パスの最大回数の変更

(公財)日本ハンドボール協会競技・審判本部では、国際大会のカレンダー (IHF、AHF) を参考にしながら、ナショナルチームへの対応も考慮し、その運用に関して、

- 1) 「2022年7月1日より国内全ての大会で実施すること」
- 2) 「2022年7月1日より運用については各連盟の判断に任せること」
- 3) 「上記2) の2023年4月1日からの運用について」

の3つに大別し、国内での運用を以下の通り定めることとします。

1) 2022年7月1日より国内全ての大会で実施すること。

- ①ボールがゴールキーパーの頭部へ直撃した際の罰則の適用
(安心・安全な競技運営のため、国内全ての大会で運用することとします)
- ②ボールサイズ (外周) について、松やにの使用の有無で分類

2)2022年7月1日より運用については各連盟の判断に任せること

- ①スローオフエリア（使用する または 使用しない）
- ②パッシブプレーの予告合図後、パスの最大回数の変更（6回 または 4回）

3) 上記2)の2023年4月1日からの運用について

- ①スローオフエリアの使用については、各連盟の判断に任せる。（継続）
- ②パッシブプレーの予告合図後、パスの最大回数は4回とする。

なお、以下に記載しています、本年度の日本協会主催大会においては、その予選大会の開催の時期等も考慮し、上述2)の事項に関して、以下の通り競技規則を運用します。各ブロックにおける予選大会についても同様の競技規則を適用します。各都道府県予選については、可能な限り同様の競技規則を適用することを推奨します。

○ジャパンオープントーナメント

- ①スローオフエリアは使用しない
- ②パッシブプレーの予告合図後、パスの最大回数を6回とする

○国民体育大会

- ①スローオフエリアは使用しない
- ②パッシブプレーの予告合図後、パスの最大回数を6回とする

○日本選手権（男子大会・女子大会）

- ①スローオフエリアを使用する
- ②パッシブプレーの予告合図後、パスの最大回数を4回とする

各連盟に任せる内容については、各連盟審判長を通して各連盟においてご協議いただき決定していただくことになります。

新競技規則変更の概要について、別添の通り通知いたします。変更に関するご質問については、各所属の審判長を通して、日本協会審判本部へ集約していきますので、ご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。

(公財) 日本ハンドボール協会
競技審判本部 審判本部長
福島 亮一
mail: futkun1212jp@yahoo.co.jp